

泉南走ろう会

連絡先
泉南スポーツ社
0724(83)4653

第14回六甲縦走タイムトライアルに参加して

宮下 哲

かの昔、源平合戦が繰り広げられた須磨をスタートして、六甲連山のハイクコースを経由し、宝塚まで抜ける全長56キロの六甲全山縦走コースは、数多くある六甲山ハイクコースの中でも、最も長くかつ厳しいと言われているほどである。このタイムトライアルは、縦走コースの中、須磨から宝塚の塩尾寺までの52キロを使って行われるのである。私は今回で4回目の参加であるが、残念ながら今まで、3回ともいい天気になったことはなく雨の日ばかりであった。楽しみにしている六甲山頂からの美しい景色を眺めたことはなく、いつも霧がちこめていて視界がわるくコースを間違えたこともあった。今までの思い出を言えば、山頂付近で猪に出会い腰を抜かしたことぐらいである。今回も前日には、低気圧が通過して大雨がふりJRのダイヤが乱れて、「又今年もダメなのか」と、あきらめていたが、はじめていい天気になった。垂水ユースホステルに宿泊をする。海岸に近く、となりは明石なので工事中の本四架橋のつり橋が正面に「ドカン」と見え、あまりの大きさに、びっくりした。6時半に須磨浦公園駅に着く。続々と参加者が集まっていた。7時に後部よりスタートをする。ウエストバックに、パン3個、おはぎ2個、小銭を入れておく。須磨浦公園よりいきなり、急な上り坂である。中途より振り返り

下を眺めると海が朝日で眩しく輝いてとてもきれいだ。高倉台の団地まで来ると、早い者はもう二ツ目の山、梅尾山のとっぺんまで登っているのである。頂上からここまで蟻の行列のごとくランナーが湧き出ている。「すごい眺めだ！」いつの間にか須磨アルプスの岩場までできていた。ゴツゴツしたこの尾根には鉄のクサリや鉄の階段があり、はって渡るところもあり、スリルも満点で、究極の登山レースの醍醐味が味わえる所であった。1回目エイドまで来る。ポカリを二杯飲んでこれから登る菊水山にそなえた。ここから山頂まで続く登りの階段は、きつい、手を膝に押し当てて一歩一歩、手の助けを借りて登っていった。メジロがさえずり、うぐいすも鳴いている。「ホッとひと息」振り返って見る。むこうの山で桃の花、梅の花が咲いている。厳しいコースの連続であるが、美しい景色をみていると疲れもふっ飛んでしまう。菊水山の頂上にたどりつく。眼下に広がる眺めは最高だ。神戸の街、神戸の港が一望できる。ストレッチを入れながら一服をする。続く鍋蓋山を越えて、市が原のチェックポイントには10時に着いた。おはぎをほおぼり、ポカリを飲んで最後の難関である摩耶山越えにそなえる。はじめて参加したときは、ここ、市が原から摩耶山までは、疲労のためか随分と長く感じたが、今回はコースもわかかってあり、マイペースで登って行ったのであんがい早く着くことができた。最初はコースいっぱいいたランナーも、ここまで来ると、前後に一人二人しかみあたなくなってきた。もうここから六甲最高峰までは急な上り坂はない。ドライブウェイを走るので車には要注意だ。アスファルトの道は膝にくるので僕には一番苦手なコースである。できるだけ側道の土の道を走ることにした。少し足も鈍って来たのか歩いたり走ったりを繰り返して

最後のチェックポイント六甲最高峰には、12時10分ついた。パンを食べ腹ごしらえをして残り塩尾寺までをこなす。ここからゴールまでは下り坂ばかりである。山頂より少し下ると昨年の震災で道は崩れ、何か所も通行止めになっていた。頑張っても早くもどろりに復興してもらいたい。いっきに頂上から下り降りてきた為か頭がフラつく、気圧の仕業のせいであろう。山あいより宝塚の街が見えてきた。急に力がみなぎってくる。ゴールは近い目の前だ。谷のように掘れてある山道を一気に飛び降りるように下っていく。「パツ」と視界がひらけ山道から舗装された道路にた。 「塩尾寺」だ。目標を5分上回ることができ6時間25分でゴールできた。



